


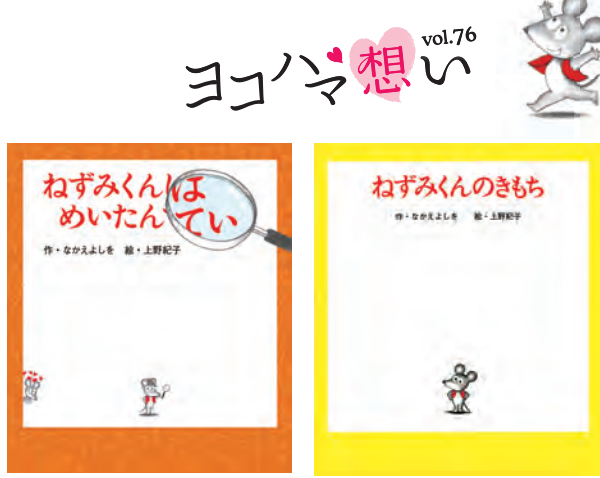
知っていますか? 神奈川県

感染防止対策取組書

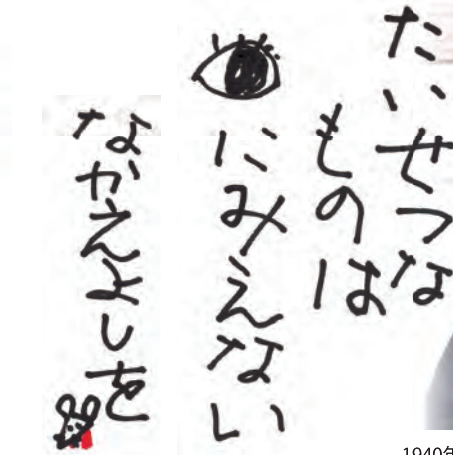
神奈川県は、お店や施設が行っている「感染防止対策」を見える化するシステムを導入しています。




1974年刊行の絵本『ねずみくんのチョコッキ』。なかえよしを・上野紀子夫妻によって生み出された“小さな物語”は、36巻まで続く人気シリーズになっている。横浜赤レンガ倉庫で開かれる初の大規模展覧会を前に、作者のなかえよしをさんに話を伺った。



ねずみくんシリーズの数々。『ねずみくんのきもち』は、なかえよしが「今の子どもたちに読んでほしい本」として挙げた作品



絵本作家
なかえよしをさん
nakae yoshio



1940年神戸市生まれ。日本大学芸術学部美術科卒業。広告代理店のデザイナーを経て絵本作家に。画家で妻の故上野紀子さんと共に個性あふれる絵本を多数生み出す。中でも『ねずみくんのチョコッキ』シリーズは累計400万部以上、世代を超えて愛され続けている。2020年、第59回児童文化功労賞を受賞。横浜市在住。

「考える絵」と出会う

子どもの頃は勉強が苦手で、図画と体育だけが勉強をしないですむので好きでした。でも、体が硬く運動に向いていません。絵が上手い訳ではなかったのですが、絵の道しかり行き場がありませんでした。

パートナーの上野(紀子さん)とは大学の美術科で出遇いました。絵がとても上手で、彼女の絵を見て絵を描くことを諦めました。

でも、何が幸いするか分かりません。ぼくは絵を描くことを諦めたおかげで、考える絵もあるということに出会いました。構図やレイアウトや色彩、デザイン、そして、ストーリーなども美術であることを知りました。自分は絵を考える方が向いていると考えるようになり、ぼくがお話を構成し、上野が絵を描くというスタイルが確立しました。

絵本が一冊できるまで

絵本を作る時は、最初にぼくがお話とラフスケッチを描き、上野に見せます。お話は、日常の何気ない出来事をヒントに作るようにしています。何気ない驚きこそが一番の驚きだからです。上野が気に入ると絵に取りかかってくれ、気に入ってもらえない

と気に入るまで何度も描き直し。作品を相談して仕上げることはなく、お互い自分の担当の部分だけをやっていました。

一緒に絵本を作っていた時は当たり前と思いましたが、絵を見直してみると、「よくもこんなに違った感じの絵を描き分けていたなあ」と、今更ながら感心しています。どんな絵でも「描けない」と言ったことがありません。注文すると「あいよ」と、どんな絵でも描いてしまう、絵を描くのが好きな不思議な人でした。

ねずみくんシリーズの誕生

物語の主人公を考える時は個性が大切です。個性は他の人のことは分かりませんが、自分のことなら分かります。ぼくは気が小さくて人見知りで恥ずかしがり屋、なるべく目立たないで隅っこでソソコソしている人間でした。そこで、自分に似た性格の主人公にするなら、小さなねずみくんがぴったりだと思ったのです。

ねずみくんシリーズは余白のあるレイアウトも特徴のひとつです。当時広告のデザイナーだったので、表紙からお話から展開、絵、キャラクターまで、すべてをデザイン的に考えました。シンプル・イズ・ベスト。「こ

れ以上削ることはできない状態」という作品が理想。ねずみくんの絵本は、最小限の登場人物、色、物、背景、文章で表現できればと思って挑戦しているつもりです。

本が大好き

48年前、上野と二人でニューヨークを旅し、描いた絵本を出版社に持ち込みました。ある出版社に認められ、初めて本になった時、自分たちの作品が外国にも通用するんだと自信を持ったものです。

ぼくは本という形が好きです。表紙があり、見返しがあり、扉がある。本文を一枚ずつめくっていくスリル、そして本の厚さ。一枚の絵では表現できないことを、起承転結で見せ付けられます。本を閉じて、役目の終わった本は、本棚の仲間と共に立ったまま休めます。また、本は複数作られ、いつでもどこでも持ち運び、人に見てもらえます。

出版される本以外に、自費でも本を作ります。時々、突然に作りたい作品が浮かぶのですが、これがわがまま勝手な内容で、出版してもらえない代物ではありませんから。

横浜で開かれるねずみくんのチョコッキ展

青葉区にもう50年以上住んでいます。当


時は環境問題が出始めた頃で、緑を求めて越してきました。適当に都会で、適当に田舎なところが気に入っています。横浜で展覧会が行われることをうれしく思っています。

人生の半分以上をねずみくんと一緒に歩んだと思うと感慨深いです。上野はねずみくんの身長を2.6cmと決めて原画を描いていました。絵本のねずみくんと同じ大きさです。昨年に上野が亡くなった後、今までのねずみくんの絵を合成して『ねずみくんはめいたんてい』という本を作りました。30冊以上のねずみくんの絵をよく見返してみると、上野は小さなねずみくんのヒゲの一本一本までも丁寧に丁寧に、ねずみくんの気持ちになりきって描いていたのだと気づき、感動しました。皆さんもどうか、小さなねずみくに近づいて、上野が描いたねずみくんにじっくり見てあげてください。

誕生45周年記念
ねずみくんのチョコッキ展
なかえよしを・上野紀子の世界

9月10日(木)~9月27日(日)11時~19時
(入場は閉場の30分前まで、最終日は17時閉場)
横浜赤レンガ倉庫1号館2Fスペース
当日一般1,000円、高校生800円、小中学生500円(ほか)
※ローソンチケット(Lコード:35222)にて日時指定チケットを販売

ねずみくんのチョコッキ展



9月26日(土) 東戸塚で相談会

相談会概要

- 日程 9月26日(土)
 - 時間 ①9:30~ ②10:30~
③11:30~ ④12:30~
 - 定員 各回1組
※完全予約制、参加費無料
 - 相談員 北田・島崎・武藤法律事務所
弁護士 武藤一久さん
 - 会場 SSビル3階
JR東戸塚駅西口徒歩2分
 - 相談会のお申込み・お問い合わせ 積水ハウス(株)横浜支店
- 0120-307-341** 10:00~17:00 (火水祝定休)
- 応募メール hello@sekisuihouse.co.jp
メール・WEBのみ24時間無休での受け付け
※応募者の個人情報は、相談会運営と今後の案内に利用します。



弁護士に聞ける! 相続、借地権、立ち退きトラブル回避方法とは?

- こんな人は相談してみませんか
- 相続資産を活用したい
 - 立ち退き交渉がうまく進まない
 - 古い家賃の建て替えを検討したい
 - 共有名義の不動産がある



人口の4人に1人が65歳以上の高齢社会を迎えた日本。どの家庭にも必ずやってくるのが相続の問題。日本では相続の多くを占めるのが不動産だそう。相続した不動産は大きな資産となりますが、様々なトラブルを抱えている場合も多く、その活用方法に頭を悩ませているケースも少なくありません。「実家を相続したが空き家になっている」「相続した不動産が共同所有で、活用法について方針がまとまらない」「相続したアパートを建替えたいが、入居者退去が進まない」など、相談内容は多岐にわたります。

活用できていない不動産は、税金がかかることは勿論、管理不足で近隣トラブルにも繋

がりかねません。貴重な資産を守り活用するために、解決策を考えてみませんか?

積水ハウスでは、北田・島崎・武藤法律事務所の武藤一久さんを招き、個別相談会を開催。経験豊富な弁護士に相談するチャンスです。少しでも気になること・不安なことがある方はこの機会に参加してみてください。

お申込みは電話、WEB、メールから。メールは相談会日程、お名前、ご住所、お電話番号、希望時間を明記の上お申込み下さい。

お気軽にご相談を

